

(学校運営協議会・報告様式)

令和5年度 第5回 白子小学校 学校運営協議会 実施報告書

- 1 日時 令和6年1月25日(木) 19:00～20:00
場所 コンピュータ室

- 2 あいさつ
(委員長)
(学校長) 学校の状況について(教育活動・行事の実施及び参観者・その他)

- 3 協議内容(○委員の発言, ●回答等)
 - (1) 学校及び児童の様子について
 - 通学路のことで、帰りに通学路ではないところを帰っている子がいるようだ。通学路の意義を伝えていく必要があるのではないか。
 - 災害や事故の際に、居場所が分からなくなる可能性があるので、通学路の意義を伝えて、決められた道を帰るように指導していく。
 - (2) 児童・保護者アンケートについて
 - 保護者の回答率はどうなっているのか。
 - 回答率は出していないが、今年度は案内を紙とメールでお知らせし、スマートフォンのフォームから回答するようにした。しかし、令和4年度と比べて保護者の回答者数は減少した。来年度、回答方法について再検討が必要。
 - アンケートの「自分にはよいところがある」の項目は大きくくくられており、回答しにくいので、具体的にスポーツが得意など、示した方分かりやすい。
 - 掃除のことをアンケート項目にあげているが、「友だちを大切にしていますか」や「友だちと仲良くしていますか」という他人を思いやる項目があってもよいのではないか。
 - アンケートの項目については、来年度検討していく。
 - (3) 学校関係者評価について
 - ・事前に配布し、意見を集約した評価書を確認していただいた。
 - ICTとはどういう意味か。読書活動で、紙の本ではなく、タブレットで読むという書籍としての活用はどうか。
 - 学校はICT活用を広くとらえている。授業では、ほとんどプロジェクターを活用して授業を行っている。パソコンをより効果的に活用することを目指しており、多額の資金が投入されているのでどんどん使って、活用できるよ

うにしていっているが、まだまだ使い方を模索しているところである。

- 特別支援学級が増えるということだが、クラスが増えるのは障がいの種別がふえるということか、どうなのか。児童の絶対数が減少しているにもかかわらず、クラス数は増えている。
- 知的学級2クラス、自情学級2クラス、肢体学級1クラスとなる。より効果的な支援を行えるようになっていく。中学・高校と成長していく先を見据えて学習を進めていく。
- 外国籍児童は何人くらい在籍しているのか。国籍も様々あるだろうし、学習能力もそれぞれ違うのではないか。
- 19名在籍。家庭では日本語を使用しないことが多いので、長期の休み明けは習ったことがまたできなくなっていることがある。読み・話すはある程度できるが、書くことができない場合が多い。
- 障害者差別解消法が4月1日から施行される。保護者にも世の中の流れを伝えていけるとよい。

4 教育支援課より

- ・ICT機器を使用するといろいろな情報を得ることができる。国はデジタル機器の活用も進めているが、読書活動も大切としている。学力調査では、読書をしている児童の結果が高い。辞書など本は厚みがあり、めくるといろいろな情報が入ってくるため、パソコンよりもメリットがある。どちらを使用するかを上手に使い分けていく必要がある。本のよいところも伝えていく。
- ・特別支援教育について、子どもたちの中には個別に支援した方が伸びる子もいる。将来を見据えて取り組みを進めている。
- ・外国につながる児童について、様々な児童がいるため、十分な対応はできていないが、集団の中で成長させようと取り組んできている。介助員や支援員を配置し、どの児童もすくすく育つようにしている。
- ・ボランティアの方を紹介していただいたり、ボランティアとして学校にご協力をいただきたい。

5 その他

第6回学校運営協議会開催について

2月15日（木）